

[モルジブのGT]

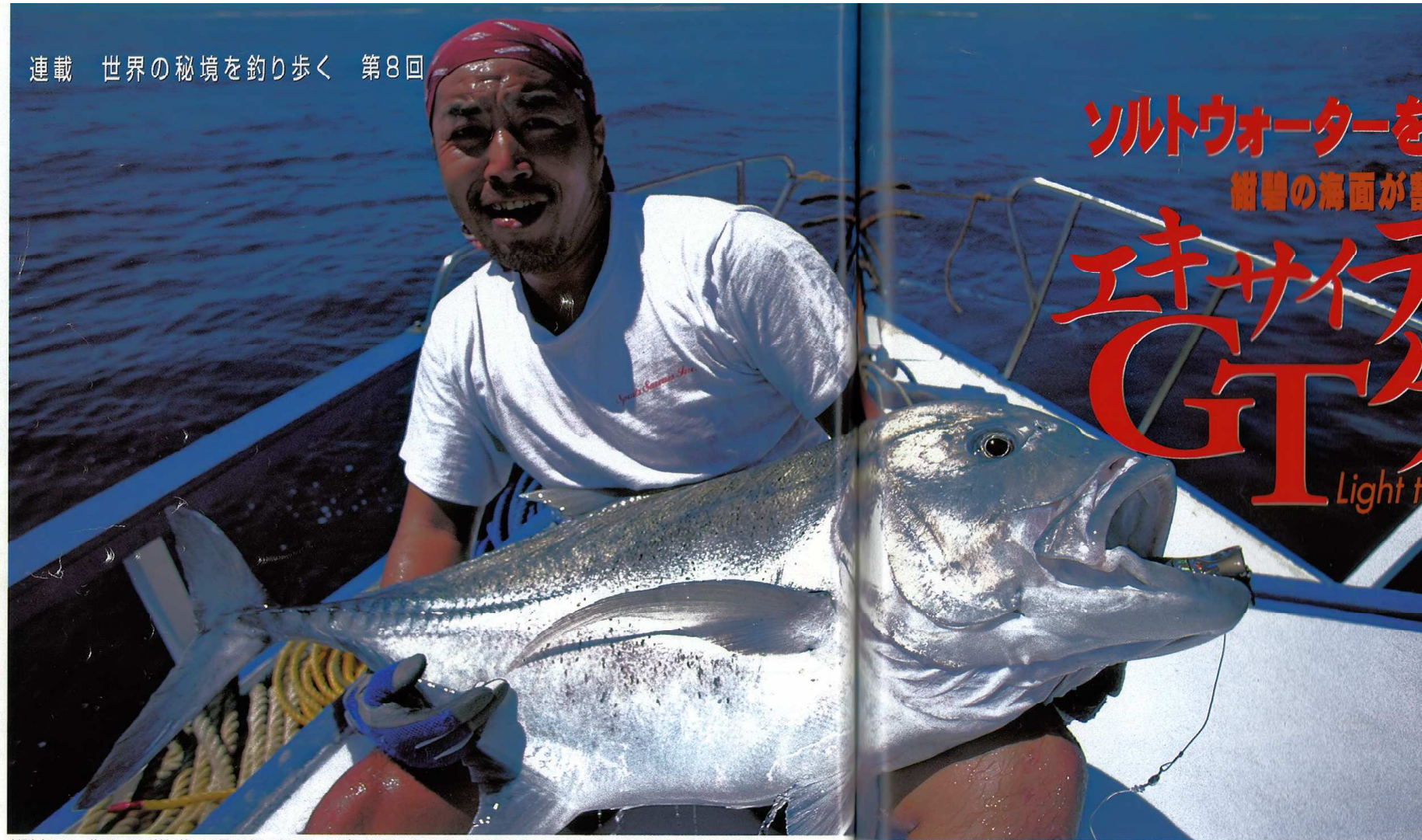
ソルトウォーターをトップで楽しむ

紺碧の海面が割れて“ガボツ”

# エキサイティング GTゲーム

Light tackle Adventure

文/則 弘祐 写真/中丸宗幸



トビポップ120g、レッドヘッドオレンジもブラックも色には関係なく食った。色よりもしる動き。マンネリになるとトビペン120gに換えたらすぐ食った。

高塚文彦の30kg。彼にとっては沖縄に続いて2回目の釣行で初の30kg。わずか10分でとった。根性と体力の150本中の1本。夢のGTファイトがモルジブでぐんと身近になった。

モルジブは秘境か？ 冗談じゃあない！ 諸兄の声が聞こえてくるようだ。その通り。モルジブは秘境どころか天国そのものの島なのである。ハネムナー、ダイバー、そしてさらに年齢を問わないたさんの不倫のカップルたち……。ああ本当にモルジブは天国なのです。(くれぐれも諸兄においては釣り以外ではモルジブへは行かぬように)



美しい景色には目もくれず、今日も釣りバカは30kgオーバーを目指す。向こうにドーナが待っている。

モルジブはまず、美しい。海も空も緑も、そして魚たちもすべてが美しい。さらにアメリカやオーストラリアのリゾートのように朝からビールを飲んでプールでギャアギャアの連中がいないのがまたいい。放っておいてくれるのがいい。モルジブはフランス領だったから、ヨーロッパスタイルの長期バカンス型が定着して静かで居心地がよい。食事もロ

ングステイゲストが相手だから、インドありフランス、イタリアスタイルありで毎日が飽きない。そんなモルジブヘザウルスのスタッフと豊橋の小川秀人で行こうという話になった。コーディネートするのはプロショップ「ガー」の小川である。今にも墜落しそうなジェット、エアランカに乗ってモルジブのマーレに着いたのは夜中であっ

た。エアポートの税関を出たら、目の前はクルーザーの船着場である。高速クルーザーでそのままリゾートへ。聞いていた以上に星空が美しい。僕はいろいろな秘境の星空を見て来たけれど、モルジブの星空はそれらに劣らず美しい。それなのに釣り師とは悲しいもので、そんな夜空とは関係なく釣りの話に夢中になっている。

当然、翌早朝からGTバトルが始まった。120gのトビポップやトビペン6号のPEラインで投げる。炎天下の日中これをくり返す。ホントにこりゃバカじゃあなきやできないっす。大きいのが出ない。釣り場への往復が足の遅い“ドーナ”では掛かりすぎる。大きいのが釣りたい。もっと釣りをしたい。で、船に住み込み